

抗議声明

「核兵器不使用」を訴えた共同声明への賛同拒否

被爆国の政府としてあるまじき行動

2015年の核不拡散条約再検討会議にむけてジュネーブで開催中の準備委員会で、南アフリカから提案された「いかなる状況下でも核兵器が再び使用されないことが人類生存のためになる」と訴えた共同声明に75カ国が賛同して署名をしたが、日本政府は「いかなる状況下でも」の文言削除を求め、採用されなかったため署名をしなかった。

唯一の被爆国として核兵器廃絶の先頭に立つべき国の政府にあるまじき行動であり、平和を望む世界中の人々に失望と憤りを与えている。ジュネーブの日本政府代表部に抗議デモがかけられるという恥ずべき事態となった。

安倍政権は北朝鮮の核攻撃に対応することを口実に、日米軍事同盟の強化をはかり、日本の軍備強化を進めようとしている。憲法改訂案、靖国神社への閣僚参拝なども日本を再び戦争をする国に戻そうとする一連の動きに他ならない。

核兵器使用は戦争当事国のみならず、地球上のすべての生命の破滅につながる。世界中の大部分の人々が核兵器の使用を禁止し廃止することを望んでいる。「三度許すまじ原爆を」と歌い続けていきた日本人はその思いが一層強い。

私たち被爆地広島 of 医師・歯科医師は、日本政府の共同声明賛同拒否に抗議するとともに、米国の属国ではなく独立国としての気概を示し、核兵器廃絶を目指し諸国の先頭にたつことを求める。

2013年4月26日

広島県保険医協会

〒732-0825

広島市南区金屋町2番15号4F

TEL 082-262-5424

FAX 082-262-5427